

空港利用におけるネットワーク効果

(英題 : “Network Effects on Airport Users”)

土居直史 *

概要

本稿は、空港利用におけるネットワーク効果を実証的に考察する。空港利用におけるネットワーク効果には、以下の3種がある。(a) 空港発着の路線数(つまり、その空港と接続している空港数)増加により、需要が増加する効果(「物理的效果」)。(b) 空港利用者増加により、混雑の不快さや、航空移動の特別感の減少などが生じる効果(負の「直接ネットワーク効果」)。(c) 空港利用者増加により、ターミナルの店舗の充実といった周辺サービスが充実する効果(「間接ネットワーク効果」)。日本の航空旅客市場のデータを用いて、これらの効果の存在と、その重要性を検証する。第1に、ネットワーク効果の存在の検証として、旅客数を空港利用者数に回帰する誘導形推定を実施する。第2に、運賃やフライト数と比較したネットワーク効果の重要性を議論するため、航空需要モデルの推定を試みる。ここでは離散選択モデルを利用する。これらの分析の結果、有意に正のネットワーク効果が確認され、特に、周辺サービス充実を経由した効果の重要性が示される。

* 東京大学大学院経済学研究科博士課程。mail: ee087011@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp。